

平成 17 年度事業報告

1. 学術研究業績の表彰

本財団の寄付行為に定められている目的を実現する方策として設立した日本農学進歩賞は、日本の農学に従事している萌芽的な研究成果をあげた若手研究者を毎年 10 名程度顕彰する制度である。今年度は 36 件の応募があり 11 名を表彰した。

第 4 回農学進歩賞授賞式及び記念講演会を平成 17 年 11 月 28 日（月）に実施した。

また、平成 14 年度に新設したアジア獣医学奨励賞（ヒルズ・アワード）をアジアの獣医学大学学部在籍する若手、中堅大学の中から 4 名に顕彰するための選考を行い、平成 17 年 8 月 23 日にバンコクにおいて授与式を実施した。

2. 農事に関する重要な事項の調査

(1) 日本技術者教育認定機構（JABEE）技術者教育プログラム（農学一般関連分野）審査事業

日本技術者教育認定機構（JABEE）の幹事学協会として 4 校の技術者教育プログラム（農学一般関連分野）の審査を実施した。

(2) 日本技術者教育認定機構（JABEE）普及指導活動

① JABEE では平成 13 年度から JABEE 公認の分野別審査員候補者研修会を開催することを認めているため、(財)農学会が中心となり農業工学関連分野、森林関連分野、生物工学関連分野の幹事学会である各学会と共催して審査員候補者研修会を開催した。

日 時： 平成 17 年 8 月 6 日（土）～ 8 月 7 日（日）

会 場： 東京大学農学部 弥生講堂

講 師： 10 名

参加者： 92 名

② 指導員派遣（実地相談）の実施（2 校）

日本技術者教育認定機構（JABEE）の幹事学協会として 2 校の技術者教育プログラム（農学一般関連分野）の実地相談を実施した。

③ 受審校に対する研修会（1 校）

日本技術者教育認定機構（JABEE）の幹事学協会として技術者教育プログラム（農学一般関連分野）の受審校に研修会（講師の派遣）を実施した。

3. 学術講演会の開催

学術成果を社会に還元するため公開セミナー等を農学会主催、共催、協賛で開催した。

1. 「資源と環境で結ばれた私たちとアジア」

日 時 平成 17 年 5 月 20 日（金）13：30～

会 場 東京大学農学部 弥生講堂

タイトル「資源と環境で結ばれた私たちとアジア」

特別講演 東京大学総長 小宮山 宏

講 演 東京大学アジア生物資源環境研究センター教授 福代康夫

東京大学情報学環・学際情報学府教授 原 洋之介

東京大学アジア生物資源環境研究センターとの共催

参加者 156名

2. 「アグリバイオインフォマティクス」

日 時 平成17年6月18日(土) 13:30～

会 場 東京大学農学部 弥生講堂

司 会 アグリバイオインフォマティクス人材養成ユニット 助教授 中井雄治

「アグリバイオインフォマティクスとは? —食品科学研究を例として—」

応用生命化学専攻 教授 阿部啓子

「カイコのゲノム情報解読」

生産・環境生物学専攻 教授 嶋田 透

「ダイオキシン分解酵素はつくれるか —アグリバイオインフォマティクスの挑戦—」

生物生産工学研究センター 助教授 野尻秀昭

東京大学大学院農学生命科学研究科と共催

参加者 177名

3. 「立ち上がる農山漁村」シンポジウム (農山漁村における知的財産の保護と活用)

日 時 平成17年7月30日(土) 13:00～

会 場 東京大学農学部 教官会議室

タイトル「立ち上がる農山漁村」シンポジウム

(農山漁村における知的財産の保護と活用)

プログラム

地区事例紹介

島根県海士町：イワガキ養殖技術の保護と、イワガキ「春香」ブランドをきっかけとした地域のブランド化が課題

和歌山県北山村：地域の伝統柑橘「じゃばら」のブランド保護と地域おこしへの活用をどのように図るかが課題

徳島県上勝町：野山の花や枝葉を「つまもの」として商品化し、独自の地位を築いたが、それをどのように守るかが課題

専門家の講演

地域農産物栽培技術の特許化：渋沢教授（東京農工大学農学部）

地域づくりビジネスモデル特許の取得：藤谷弁理士（杉村萬国特許事務所）

地域農産物の商標と地域ブランドづくり：正林弁理士（正林国際特許商標事務所長）

パネルディスカッション

「紹介された地区事例の課題に対し、知的財産権の観点からどのような

な対策が可能か

林 良博（副学長）

農林水産省と共催

参加者数 282名

4. 「モンスーン・アジアの農業とフード・セキュリティ」

日 時 平成 17 年 11 月 3 日 (木) 14:00～

会 場 東京大学農学部 弥生講堂

タイトル「モンスーン・アジアの農業とフード・セキュリティ」

基調講演

フード・セキュリティ : レスター・ブラウン (アース・ポリシー研究所長)
(逐次通訳付き)

コーディネーター: 小山 修 (国際農林水産業研究センター)

パネリスト

レスター・ブラウン

上沢正志 (農業環境技術研究所)

新藤純子 (農業環境技術研究所)

川島博之 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

渡辺紹裕 (人間文化研究機構総合地球環境学研究所)

根本圭介 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

(独) 農業環境技術研究所との共催

参加者 321名

5. 「どこまで食糧増産は可能か」

日 時 平成 17 年 11 月 26 日 (土) 13:30～

会 場 東京大学弥生講堂

タイトル 「どこまで食糧増産は可能か」

司 会 農学国際専攻 助教授 溝口 勝

講 演

『緑の革命』から学ぶもの」

農業・資源経済学専攻 教授 岩本純明

「耕地創生に向けて」

生物・環境工学専攻 教授 宮崎 毅

「遺伝子組換え作物の可能性」

生産・環境生物学専攻 教授 大杉 立

パネルディスカッション「食糧増産と農学の役割」

東京大学大学院農学生命科学研究科と共催

岐阜大学及び東京大学 21 世紀 COE プログラムの後援

参加者 222 名

6. 「クマの棲む森、ワシの棲む森」

日 時 平成 17 年 3 月 25 日 (金) 午後 3 時～5 時 30 分

会 場 東京大学大学院農学生命科学研究科 教官会議室

パネラー

「入り会いの森、繋がり森」

東京大学大学院農学生命科学研究科 井上 真

「クマの森は今いかに一人とクマとの共存を目指して」

岩手大学農学部 青井俊樹

「ブナの森に生きるツキノワグマの不思議な生態」

岐阜大学応用生物科学部 坪田敏男

「イヌワシが『森の国』で生き続けるために」

(株) イーグレット・オフィス 須藤明子

「森を活かしてイヌワシを救うー北上高地からの報告ー」

岩手県立大学総合政策学部 油井正敏

「世界の自然をつなぐ渡り鳥ータカ類の渡り衛星追跡と保全ー」

東京大学大学院農学生命科学研究科 樋口広芳

参加者 110名

4. 印刷物の刊行

(1) 第4回日本農学進歩賞受賞者講演要旨集刊行

年1回、300部(52頁)

(2) 農学・農業関連分野の情報発信と情報交換を促進するため農学関連の教育研究機関(農学部関係、日本農学会所属学会など)各種農業団体等のホームページの作成、改良、運営を支援した。

5. その他目的を達成するために必要な事業

弥生講堂一条ホール内において学会等を開催する諸団体の要望及び農学会の自主的財源による事業拡大の方策として備品類(液晶プロジェクター、スライドプロジェクター、展示パネル等)の貸出業務を行った。

6. 会議開催について(理事会、評議員会)

平成17年度中に理事会、評議員会を2回開催し、主として次の事項について審議した。

(1) 平成17年度事業並びに決算について

(2) 平成18年度事業計画並びに予算について

(3) JABEE 幹事学協会としての事業について

(4) 農学会の活性化について